

(トップページ: <http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(MENAランキングシリーズ: <http://mylibrary.maeda1.jp/MENAranking.html>)

マイライブラリー:0443

(注)本稿は 2018 年 6 月 7 日から 13 日まで 4 回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

大きく遅れている MENA、平均でも世界 180 か国中の 139 位:報道の自由度(2018 年版)

(MENA なんでもランキング・シリーズ その6)

掲載日:2018.6.17

前田 高行

目次	頁
1. 「World Press Freedom Index」について	2
2. 2018年版の MENA 各国の「報道の自由度」ランク	2
3. 2017年と2018年の自由度の比較	4
4. 2014年から2018年までの順位の推移	4

中東北アフリカ諸国は英語の Middle East & North Africa の頭文字をとって MENA と呼ばれています。MENA 各国をいろいろなデータで比較しようと言うのがこの「MENA なんでもランキング・シリーズ」です。「MENA」は日頃なじみの薄い言葉ですが、国ごとの比較を通してその実態を理解していただければ幸いです。なお MENA の対象国は文献によって多少異なりますが、本シリーズでは下記の 19 の国と 1 機関(パレスチナ)を取り扱います。(アルファベット順)

アルジェリア、バハレーン、エジプト、イラン、イラク、イスラエル、ヨルダン、クウェイト、レバノン、リビア、モロッコ、オマーン、パレスチナ自治政府、カタール、サウジアラビア、シリア、チュニジア、トルコ、UAE(アラブ首長国連邦)、イエメン、

これら 19 国・1 機関をおおまかに分類すると、宗教的にはイスラエル(ユダヤ教)を除き、他は全てイスラム教国家であり OIC(イスラム諸国会議機構)加盟国です。なおその中でイラン、イラクはシーア派が政権政党ですが、その他の多くはスンニ派の政権国家です。また民族的にはイスラエル(ユダヤ人)、イラン(ペルシャ人)、トルコ(トルコ人)以外の国々はアラブ人の国家であり、それらの国々はアラブ連盟(Arab League)に加盟しています。つまり MENA はイスラム教スンニ派でアラブ民族の国家が多数を占める国家群と言えます。

第6回の MENA ランキングは、ジャーナリストの NGO 団体「国境なきレポーター(Reporters Without Borders)」(略称:RSF)が発表した「報道の自由度2018(Press Freedom Index 2018)」から MENA 諸

国をとりあげて比較しました。



RSF ホームページ: <http://index.rsf.org/#/>

1. 「World Press Freedom Index」について

「国境なきレポーター(Reporters Without Borders)」は、1948年の世界人権宣言、及びこれに続く1950年の「人権と基本的自由の保護に関する会議」などで採択されたいくつかの憲章や宣言に触発され、各国の報道関係者が自発的に結成した非政府組織(NGO)である。フランスのジャーナリストが中心となって設立されたため、正式の組織名は Reporters Sans Frontieres であり、その頭文字をとって RSF と略称され、本部はパリにある。

RSF は、世界各国で取材妨害を受け、時には生命の危険に晒されているジャーナリストを保護し、その障害を取り除く活動を行っており、その一環として2002年から毎年、報道の自由度に関する各国のランク「報道の自由の指標(Press Freedom Index)」を公表してきた。この指標は RSF が作成した50項目のアンケートに対して、世界各地の表現の自由のための擁護組織団体及び多数のジャーナリストが回答した結果を集計したものである。

2018年版 Press Freedom Index は世界180カ国の報道の自由度を指標化し、ジャーナリストに対する各国の対応ぶりを評価したものである。このため直近に報道の規制または記者の逮捕などの政府の取材妨害があった国、或いはジャーナリストが誘拐・殺害に遭った国についてはその年のランクが低くなる傾向がある。なお、RSF 自身は、このランクは「報道の質」の良否を示すものではない、と断っている。

よく知られている通り2011年には多くの MENA 諸国に「アラブの春」と呼ばれる政治変革の嵐が吹き荒れた。その後もイラク・シリアではイスラム過激派の IS(イスラム国)のテロ活動により内戦状態が続いた。最近 IS は終息に向かっているようであるが、シリア国内は宗派・民族が入り乱れ未だ混乱が治まらない。またイエメンは大国の代理戦争の様相を呈し内戦が泥沼化している。さらにリビアでも内戦が続くなど MENA 各国の政情は安定には程遠い状況である。このため MENA 域内でのジャーナリストの活動が危険に晒される状況は一向に改善される気配が見られない。

(MENA の世界平均順位は180カ国中139位！)

2. 2018年版の MENA 各国の「報道の自由度」ランク (末尾表 6-T01 参照)

MENA 19カ国1機関(上記参照)の中で最もランクが高かったのはイスラエルであり、同国は世界180か国中の87位である。MENA トップとはいえ世界180か国の中では平均をわずかに上回る水準にとどまっている。イスラエルに次ぐのがチュニジア(97位)でありこの2か国以外のMENA 諸国はすべて100位以下である。MENA の世界平均順位は139位と極めて低い。

MENA3位はレバノンの世界100位であり、クウェイトが世界105位である。120位台にはカタール(世界125位)、オマーン(127位)及び UAE(128位)が続いている。そして MENA8位から11位までのヨルダン、パレスチナ自治政府、モロッコ及びアルジェリアの4か国が130位台に並んでいる。

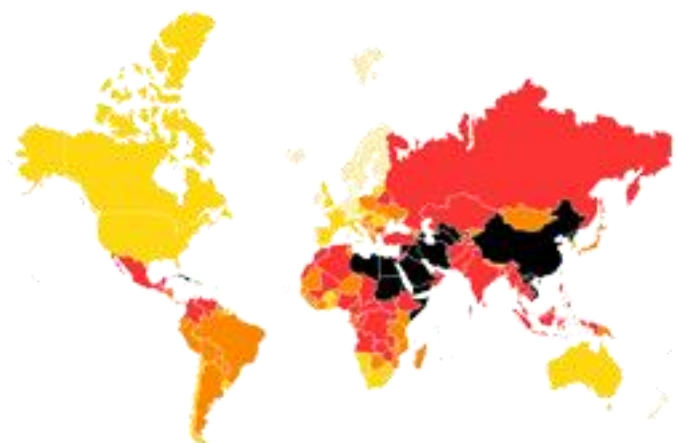
中東の大国であるトルコは世界157位であり、同じく大国とされるエジプト及びイランはそれぞれ161位と164位である。そして世界最大の産油国としての経済力を誇るサウジアラビアの報道の自由度は180か国中の169位であり世界最低ランクに位置づけられる。MENA で最も自由度が低いシリアは世界177位である。

ちなみに世界で報道の自由度が最も高い国はノルウェーで上位の国の多くは北欧の国々である。日本は世界67位であり米国(45位)よりかなり低く先進国の中では評価が厳しい。なお中国は世界176位でシリアとほぼ同レベル、世界最低の180位は北朝鮮である。

評価ポイントで見ると世界1位のノルウェーは一桁の7.63であるのに対して(ポイントが低いほど自由度が高い)、MENA トップのイスラエルが30.26、最も低いシリアは79.22、MENA の平均は48.33である。ノルウェーと MENA 各国の格差は非常に大きいと言える。(参考:米国23.73、日本28.64、中国78.29)

RSF のレポートではポイントに応じて各国の自由度を下記の5つに分類し色分けをした世界地図を掲載している。

- (1) 白(薄黄)色: 0~14ポイント(Good situation)
- (2) 黄色: 15~24ポイント(Satisfactory situation)
- (3) 橙色: 25~34ポイント(Noticeable problems)
- (4) 赤色: 35~54ポイント(Difficult situation)
- (5) 黒色: 55~100ポイント(Very serious situation)



この色分け地図では白(薄黄)色が最も自由度の高い国家群とされ、続いて黄色、橙色、赤色と移り、最後の黒色は報道の自由度が非常に深刻な状況にある国々とされている。これを見ると MENA の国々の多くは赤色であり、最低レベルの黒色もイラク、エジプト、リビア、イラン、バハレーン、イエメン、サウジアラビア、シリアの8か国に達している。

(ランクが大幅に落ちた UAE！)

3. 2017年と2018年の自由度の比較 (末尾表 6-T01 参照)

報道の自由度のMENAの世界平均順位は前回及び今回共に139位である。ポイントは昨年の48.89に対して今年は48.33でありわずかながら改善している。このことは世界全体で報道の自由度が改善されているため MENA の順位に変化がないことを示している。

MENAの中では前回世界91位であったイスラエルが今回87位にランクアップし、2年連続で MENA トップである。イスラエルのように前回より順位を上げた国はヨルダン(138位→132位)など少数にとどまり、逆に順位が変わらなかった国と下がった国は15か国に達している。UAE は前回の119位から今回は128位に下がり、MENA の中では下げ幅が最も大きい。

因みに日本は2017年のポイント29.44から2018年には28.64に改善しており、世界順位も昨年の72位から今年は67位にアップしている。なお米国はポイント、世界ランク共に昨年と変わらず世界45位である。また中国は昨年と同様の176位であるがポイントは77.66から78.29にわずかながら悪化している。

4. 2014年から2018年までの順位の推移

(MENA 諸国の殆どは世界順位130位以下で低迷！)

(1) MENA 全般の動き (末尾表 6-T02 参照)

2014年から2018年までの MENA 各国の世界順位の変化を見ると、今回 MENA トップとなったイスラエルは3年連続して順位が上昇傾向にある。またチュニジアは2016年以降世界100位以内を維持している。とは言え今回世界100位以内はこの2か国にとどまっており、MENA の平均順位は5年間を通じて138位または139位である。半数近い国は140位以下であり、特にイラン、シリア、イエメンなどは世界180各国の中で170位前後の最下位グループにとどまっている。

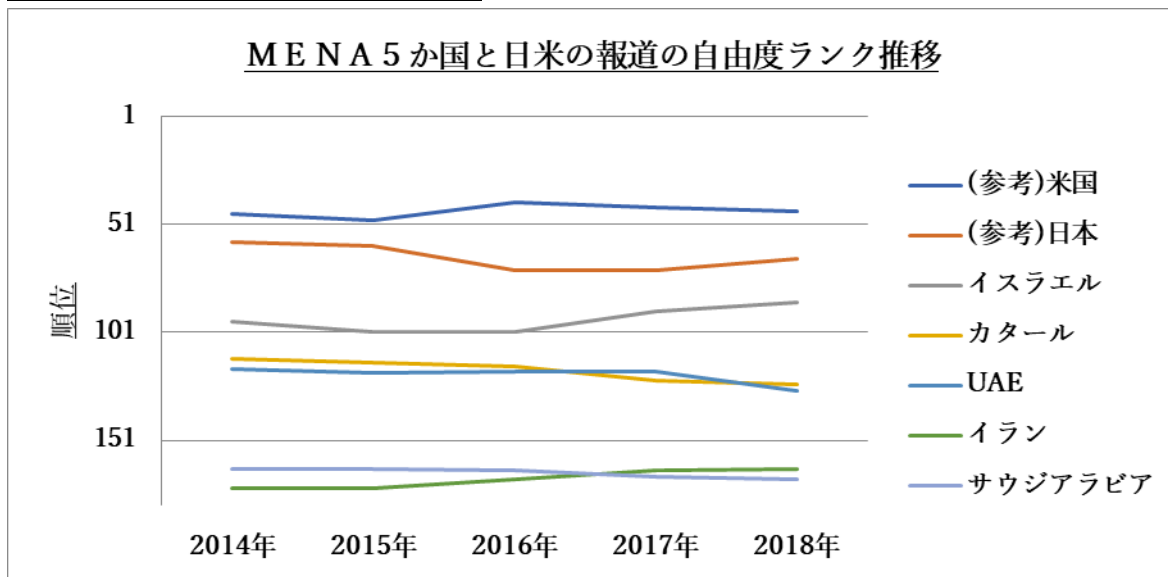
2011年のいわゆる「アラブの春」により MENA 諸国の報道の自由が進展するかに見えたが、実際には強権独裁政権が倒れた後、自由が確保されたのはチュニジアのみでありその他の国々はいずれも政治的混乱、更には内戦の勃発あるいは新たな強権政権の発足等によりむしろ報道の自由が脅かされる事態となっている。例えばリビアはカダフィ政権が倒れた後、各地の部族勢力が群雄割拠する状況で治安が極度に悪化しておりジャーナリストの安全が確保できない状況である。アルジェリアも国内の治安は良ならず自由な報道が妨げられている。シリア、イエメンなどは2013年以前から報道の自由度が世界最低水準にあり改善の兆しが見えない。

そのような中でエジプトはムバラク政権が倒れたのちに新政権に就いたムスリム同胞団がわずか1年でシーシ軍事独裁政権にとって代わり現在では政治体制が安定した状況にある。軍事政権下で報道の自由が阻害されていることもあり自由度の世界ランクは低いままである。

またクウェイト、サウジアラビアなど GCC 王制国家は、「アラブの春」の波及を恐れ、あるいはその後活動を活発化させているアル・カイダや IS(イスラム国)などの過激派テロの侵入を防ぐための報道管制を強めており、ジャーナリストの活動の自由が大幅に制限されている状況である。

5年間で最も順位を下げた国はリビアで2014年の137位から2018年には162位と大幅に後退している。湾岸の GCC 諸国についてはクウェイト(91位→105位)、カタール(113位→125位)、UAE(118位→128位)、サウジアラビア(164位→169位)、バハレーン(163位→166位)と軒並み順位が下落しており、順位を上げたのはオマーン(134位→127位)だけである。

(2) 主要国の2014～2018年の推移



ここではサウジアラビア、イスラエル、カタール、UAE 及びイランの5か国と米国及び日本の2014年から2018年までの推移を比較してみる。まず日本の場合2014年は世界59位で、その後も61位→72位→72位と年々順位が下落した後、今回は少しアップしているが、未だ2014、15年の水準に戻っていない。米国は2014年の46位から翌2015年には49位まで下落したが、その後持ち直して40位台前半を維持しており、5年間を通じると殆ど変動は見られない。

一方 MENA 諸国の中ではイスラエルは2014年から2016年までは100位前後にとどまっていたが、2017年91位、2018年87位と近年急速にランクを上げている。これに対してカタールの自由度ランクは5年間を通じて毎年下がり続け、2014年の113位から2018年には125位に下落している。UAEもカタールと同様、長期低落傾向にあり2014年の118位が2018年には128位に落ち込んでいる。

サウジアラビアは5年間を通じて160位台に張り付いているが、2014年の164位から2018年

には169位まで低下、世界180カ国の中で最下位グループに定着しつつある。イランは2014年、15年と170位台であったが2016年以降は160位台に上昇、2017年にはサウジアラビアを追い越し今年は164位である。イランの報道の自由度が改善される一方、サウジアラビアは自由度が無くなりつつある。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

MENA(中東・北アフリカ)なんでもランキング 6:報道の自由度

	国名	2018年		2017年		2018/2017	
		ポイント	世界順位	ポイント	世界順位	ポイント	世界順位
1	イスラエル	30.26	87	31.01	91	0.75	4
2	チュニジア	30.91	97	32.22	97	1.31	0
3	レバノン	31.15	100	33.01	99	1.86	▲ 1
4	クウェイト	31.91	105	33.61	104	1.70	▲ 1
5	カタール	40.16	125	39.83	123	-0.33	▲ 2
6	オマーン	40.67	127	40.46	126	-0.21	▲ 1
7	UAE	40.86	128	39.39	119	-1.47	▲ 9
8	ヨルダン	41.71	132	43.24	138	1.53	6
9	パレスチナ自治政府	42.96	134	42.90	135	-0.06	1
10	モロッコ	43.13	135	42.42	133	-0.71	▲ 2
11	アルジェリア	43.13	136	42.83	134	-0.30	▲ 2
12	トルコ	53.50	157	52.98	155	-0.52	▲ 2
13	イラク	56.56	160	54.03	158	-2.53	▲ 2
14	エジプト	56.72	161	55.78	161	-0.94	0
15	リビア	56.79	162	56.81	163	0.02	1
16	イラン	60.71	164	65.12	165	4.41	1
17	バハレーン	60.85	166	58.88	164	-1.97	▲ 2
18	イエメン	62.23	167	65.80	166	3.57	▲ 1
19	サウジアラビア	63.13	169	66.02	168	2.89	▲ 1
20	シリア	79.22	177	81.49	177	2.27	0
	(MENA 平均)	48.33	139	48.89	139	0.56	▲ 1
	(国数)		180カ国		180カ国		
	日本	28.64	67	29.44	72	0.80	5
	世界 1 位(ノルウェー)	7.63	1	7.60	1	-0.03	0
	米国	23.73	45	23.73	45	0.00	0
	中国	78.29	176	77.66	176	-0.63	0
	世界最下位(北朝鮮)	88.87	180	84.98	180	-3.89	0

MENA(中東・北アフリカ)なんでもランキング6:報道の自由度

国名	世界順位				
	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
	180カ国	180カ国	180カ国	180カ国	180カ国
アルジェリア	121	119	129	134	136
バハレーン	163	163	162	164	166
エジプト	159	158	159	161	161
イラン	173	173	169	165	164
イラク	153	156	158	158	160
イスラエル	96	101	101	91	87
ヨルダン	141	143	135	138	132
クウェイト	91	90	103	104	105
レバノン	106	98	98	99	100
リビア	137	154	164	163	162
モロッコ	136	130	131	133	135
オマーン	134	127	125	126	127
パレスチナ自治政府	138	140	132	135	134
カタール	113	115	117	123	125
サウジアラビア	164	164	165	168	169
シリア	177	177	177	177	177
チュニジア	133	126	96	97	97
トルコ	154	149	151	155	157
UAE	118	120	119	119	128
イエメン	167	168	170	166	167
(MENA 平均)	139	139	138	139	139
世界1位	フィンランド	フィンランド	フィンランド	ノルウェー	ノルウェー
日本	59	61	72	72	67
米国	46	49	41	43	45
中国	175	176	176	176	176
世界最下位	エリトリア	エリトリア	エリトリア	北朝鮮	北朝鮮